

No. 3	平成30年度 「地域子育て活動支援事業」 実施の内容
団 体 名	里山生活学校
事 業 名	里山樹木利活用図鑑づくり事業
実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月
事 業 実 績	【事業概要】 自然観察会を開催し、オリジナルの樹木利活用図鑑を作る。その為に今年度は、植物の情報収集と集めたデータの整理分析等を行った。 ・平成29・30年度は、図鑑作りを目的とした里山観察会を年4回開催し、図鑑の土台となる自生種を中心に、123種類のリストが出来た。 ・観察会や撮影会を実施するフィールド内の山道中心に整備作業を行った。 ・樹木の実や種をし活用したタネアートワークショップを開催。 ・地域に生息する毒のある蜂や蛇、毒性のある植物等「危険動植物」を写真で確認できる資料と説明マニュアルを作成。 ・8回の観察会で、約90種の樹木にタグをつけ、「葉」「冬芽」「花」「実」などの写真撮影をしてデータ化した。 ・当初の計画の中で唯一実行できなかったのは、樹木にオリジナルな名称を付けるという活動。実際に取り組んでみると、かなり植物に詳しい大人でさえ新しい名称はなかなか思いつかないものであることがわかった。この部分は、「オリジナルキャラクターを作る」という方向に転換をした。結果として、資格に強く訴えられるという点で、どの年齢の子供たちにとっても、樹木に対してよりインパクトのある印象を与えられることになった。
実 施 効 果 自 己 評 価	【実施効果】 ・2ヘクタール以上の森林に自生する多種多様な樹木を同定識別して、リストとタグ付け、自然科学に関心の高い子供や中高生に対しても、レベルの高い観察会を開催できるようになってきた。 ・質の高い観察会は、子どもの親たちも真剣な参加をしてくれるので、自然科学に関心の高い子が育つことにつながることを期待できる。 ・「葉」「冬芽」「花」「実」に関してオリジナル図鑑完成に向けた細かいオリジナルデータがほぼそろい、里山の特徴を数値で評価する一つの道筋ができた。 ・美術学科の学生のインストラクターさんに、現在20種類以上のイラストキャラクターを描いてもらった。 【自己評価】 この一年テーマとした「花」と「実」の撮影が、想定外に進まなかった。 花の時期、実の時期が思ったより短いものばかりで、カメラマンに来てもらった日に撮れるものが少なくて、次年度に大きな課題を残してしまった。 取り逃がしてしまった樹木の花の時期を一覧リストにして、次年度絶対に逃がすことなく撮影することが必須課題である。